

今年を振り返って ～ 令和2年 静岡市の主な出来事 ～

新型コロナウイルスに立ち向かいました。

1 市民の皆様への情報発信、安全・安心の確保

◆新型コロナなんでも相談ダイヤルの開設（4月24日開設）

感染症に関すること	8,344件	
経営、融資、休業要請・協力金等に関すること	14,459件	
特別定額給付金に関すること	38,897件	(12/22時点)



◆「静岡市LINE公式アカウント」の開設（6月10日開設）

新型コロナウイルス感染症情報や防災情報などをリアルタイムでお知らせ
友だち数 35,981人 (12/22時点)

◆葵・駿河・清水区役所に「混雑ランプ」を導入（8月3日導入）

3区役所の窓口と駐車場の混雑状況をスマホなどで知ることができるサービスを新たに開始しました。青、黄、赤色の表示で待ち時間を「見える化」し、区役所を訪れる皆さまの利便性を高めることで、市民に寄り添うおもてなしの向上に努めます。

サイトアクセス数32,511件 (12/22時点)



2 感染防止対策と新しい生活様式への対応

◆新型コロナウイルス感染症拡大防止協力金支給事業（5月7日～6月30日）

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、市内事業者に対して休業要請を行い、その要請に協力する事業者に対して協力金を支払うことにより、事業者と連携し、感染拡大防止に取り組みました。

4,016件、2,164,500千円



◆各区でPCRセンターの開設（5月14日 駿河・清水、5月21日 葵）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に備え、検査機会の拡大を図るため、検体採取を行うドライブスルー方式のPCRセンターを、各区に1カ所、計3カ所設置しました。

検体採取数2,372件 (12/18時点)

◆飲食店の感染防止対策取組ステッカーの交付&職員確認

（8月25日ステッカー交付開始、9月24日職員確認開始）

新型コロナウイルス感染防止対策に取り組んでいる飲食店を後押しするため、静岡市食品衛生協会と連携して、お客様へ感染防止対策をアピールできるステッカーと宣言書を飲食店に交付。希望する店舗には、市職員が直接訪問し、感染防止対策の取組状況を確認しています。

1,038カ所交付、590カ所確認 (12/18時点)



◆市立小・中学校臨時休業を受け、秀英予備校との連携による学びサポート事業を実施（9月5日 補充学習開始）

コロナ感染拡大による休校によって、学習に不安を感じている小中学生をサポートするため、秀英予備校と連携し、補充学習を実施しました。秀英予備校より提供を受けた教材を活用し、教員O Bや大学院生等の補充学習により、不安を抱えていた子どもたちの学びが保障されました。

申し込み人数：【小学5・6年生】約1,200人、【中学生】約600人

◆5大構想の3つの大規模事業の見直し（6月議会、9月議会）

新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、「歴史文化施設」「海洋文化施設」「新清水庁舎」について一旦立ち止まり、見直しを行いました。その結果、事業の特性や状況に応じ、それぞれリスタートに向けて新しい道筋を探っていくこととし、歴史文化施設については事業の再開を決定しました。

◆上下水道フェアをオンラインで初開催！（8月1日～9月10日）

例年「水の週間」に合わせ、葵スクエア・青葉イベント広場で実施している「上下水道フェア」について、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、オンライン形式で実施しました。

HP特設サイトのバーチャル会場で動画を楽しむことが出来、約9,000件のアクセスがありました。



今年を振り返って ～ 令和2年 静岡市の主な出来事 ～

新型コロナウイルスに立ち向かいました。

3 経済支援・観光支援

◆特別定額給付金支給事業 (5月11日～9月7日)

国の「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」に基づき、一人あたり10万円の特別定額給付金を給付。5月からオンライン、6月から郵送による申請を受け付け、最終の給付世帯数は31万8356世帯、給付率は99.36%となりました。

◆エール静岡事業者応援金支給事業 (5月25日～8月31日)

新型コロナウイルス感染症の影響を受けている中小企業者の事業継続を支援するため、応援金を給付しました。
給付額 1事業者あたり10万円、給付件数9,735件、給付額973,500千円

◆エール静岡観光事業支援金 (5月25日～7月20日)

観光需要の受け皿となる観光事業者の事業継続を支援するため、経営に深刻な打撃を受けている観光事業者に、事業継続のために必要な費用の一部を助成しました。

上限50万円(複数施設100万円、中小企業等40万円・複数施設90万円)、交付件数208件、交付額96,595千円

◆エール静岡消費喚起事業費補助金 (7月22日～9月30日)

地域経済の活性化及び商業活動の周遊性又は再来訪率の向上を図るため、感染防止対策を講じたうえで消費喚起事業を実施する商店街等の団体に対し、経費を助成しました。

交付先28団体、交付決定総額95,333千円 (12/23時点)

◆「まちは劇場」J°フォーミングアーツ発信事業奨励金 (6月1日～7月31日)

芸術活動の場を提供するとともに、市民にエールを届けるため、市内在住アーティストのJ°フォーミングアーツの動画作品を公募・配信
1人当たり100千円、グループ上限500千円、交付件数80件、交付額19,600千円

◆GoToしずおかキャンペーン事業 (6月19日～12月6日)

「食べて、遊んで、くつろいで 静岡市を満喫しよう」をテーマに、落ち込んだ地域経済を活性化させるため、市内の指定された飲食店や土産物店、体験施設など400以上の施設で使用できる商品券を配布しました。
1枚2千円、114,989枚配付、195,979千円

◆しずおか中部5市2町「GO TOスタンプラリー」事業 (10月10日～12月13日)

停滞した地域経済回復のため、しずおか中部連携中枢都市圏を構成する静岡県中部5市2町の施設を巡るスタンプラリーを開催しました。

延べ参加者数 約8,000人、施設訪問者数 延べ約30,000人、全施設制覇者数 約1,100人



4 まちの賑わい創出

◆シェアサイクル事業「PULCLE」サービス開始 (6月8日開始)

好きな時に好きなサイクルポートで自転車の貸出・返却ができるシェアサイクル「PULCLE」が本市でスタートしました。スマホアプリで利用可能です。他の交通機関と組み合わせて、静岡のまちを楽しく移動してみませんか。

延べ利用回数：31,450回、延べ利用者数：8,880人



◆「静岡市はいいねえ。スタンプラリー」の実施 (7月1日～8月31日)

さくらももさんのオリジナルイラストに関連する市内の観光地を巡って、地元の経済活動を応援するため静岡県民を対象としたスタンプラリーを企画・実施しました。

延べ参加人数 8,432人

◆「しずちカ茶店 一茶Seasonal(シーズナル)」実施 (10月16日～11月15日)

JR静岡駅北口地下の「しずちカ」の今後の活用を模索するため、「喫茶一茶」とコラボして期間限定ショップを展開。お茶のPRや茶業支援を目的に、煎茶のほか炭酸緑茶やフルーツ緑茶なども提供しました。

また、静岡土産や弁当の販売、店頭にはオクシズ材椅子を配置し、これまで以上の賑わいを創出しました。
延べ来場者数 11,358人



◆呉服町通り・七間町通りに「ハニカムスクエア」オープン (9月25日オープン)

呉服町通り・七間町通りの2箇所に、道路の一部を歩行者のための空間とする県内初のパークレット「ハニカムスクエア」がオープン。コロナ禍での屋外空間を活用した賑わいづくりの取組みとして、居心地の良い空間を演出しています。

1日延べ利用者 266人 (11/21(土)計測時)



◆追手町音羽町線『駿府ホリノテラス』お披露目 (10月17日お披露目)

おまちと駿府城公園をつなぐ追手町音羽町線に、水辺デッキ等から成る広場空間『駿府ホリノテラス』が完成しました。3月には都市再生推進法人が常設カフェ等を開店予定で、更なるにぎわい創出が期待されます。

今年を振り返って ～ 令和2年 静岡市の主な出来事 ～

明るい話題もありました。

◆静岡学園高等学校サッカー部

全国高等学校サッカー選手権大会優勝（1月）

本市の静岡学園高等学校サッカー部は、全国高等学校サッカー選手権大会に出場し、決勝で前年度王者の青森山田（青森）と対戦、3－2の逆転勝利で24大会ぶり2度目の優勝を飾りました。静岡県勢としても24年ぶりの全国優勝でした。



◆子育てしやすいまちの着実な歩み

3年連続で待機児童ゼロを実現（4月）

「子育てしやすいまち」として保育定員の拡充を進め、3年連続で年度当初の待機児童ゼロを実現しました。

子どもや若者は社会の希望です。子どもや若者、そしてその家族の笑顔があふれる社会の実現を目指していきます。



◆J R 静岡駅北口に「今川義元公像」を設置（5月）

駿府のまちに経済的・文化的な繁栄をもたらした今川義元公の銅像が今年5月、J R 静岡駅北口広場の「竹千代君像」の隣に設置されました。この銅像は、静岡商工会議所が、義元公の功績を未来へ伝えるため、寄付金を集めて設置し、その後、市に寄贈されました。

「歴史文化のまち 静岡市」の新たな顔として、今後も静岡市の未来を見守ってくれそうです。



◆『日本初「旅ブーム」を起こした弥次さん喜多さん、駿州の旅』

日本遺産に認定（6月）

日本初の「旅の大ブーム」の火付け役である十返舎一九の滑稽本「東海道中膝栗毛」や歌川広重の描いた「東海道五十三次」の浮世絵をテーマに東海道の地域資源を活用したストーリーが今年6月、「日本遺産」に認定されました。

今後は、両市にまたがる「2峠8宿」の魅力を官民連携しPRするなど、街道観光の推進を目指してまいります。



◆静岡市認知症ケア推進センター“かけこまち七間町”をオープン（10月）

認知症本人やその家族に対して、総合的な支援を行う中心的な拠点として、まちなかに開設しました。認知症になっても、本人や家族が希望を持って暮らしていくことができるように、困りごと相談だけでなく、人材育成や認知症予防に対する普及啓発なども併せて対応できる施設です。

今後は、認知症本人や家族の交流・活動支援なども行い、「健康長寿のまちづくり」を進めていきます。

